

海外研修報告書

深澤晴奈（中南米科）

このたび「卓越した大学院拠点形成支援補助金」による助成を受け、2014年2月5日から3月30日にかけて、スペインのマドリード、アンダルシア、バルセロナにおいて研究調査を行った。

この間、主にマドリードにあるスペイン科学研究高等研究院（CSIC）人文科学・社会科学研究所内の経済学・地理学・人口統計学研究所において、ロペス教授の指導の下、ビジター研究員として同研究室に在籍し、主に経済危機以降のスペインの移民政策の転換について調査をおこなった。スペインは2000年前後以降に瞬く間に入移民国に変貌したが、本調査では、2007年以降に急速に悪化した経済危機の影響を受けて移民に対して新たな政策を採るべく迫られ、2008年から2011年にかけて、労働力をいかに獲得するかという政策から、失業に陥った定住移民労働者への雇用対策、帰国支援策の促進、社会的・経済的インテグレーションの維持といった政策転換が見られた点を明らかにすることができた。

3月には、同研究所に所属しつつも、地方自治州に赴いてインタビュー調査をおこなった。まず、10日～12日にかけては、アンダルシア州セビージャ市にて、アンダルシア州常設移民研究所（OPAM）所長、労働者総同盟（UGT）アンダルシア州支部移民担当者、セビージャ移民保護ネットワーク（Sevilla Acoge）代表にインタビューをおこなった。続いて13～14日には、同州アルメリア県に赴き、アルメリア大学のプマレス教授及びチェカ教授、ロケタス・デ・マル市移民センター所長より、農業セクターが非常に発達している同県への入移民の歴史や行政側の取り組みについて聞き取りをおこなった。さらに、14日には、アフリカ大陸からボートピープルが漂着する浜辺としても知られているグラナダ県モトリル市にある移民保護ネットワークを訪問した。

18～21日には、カタルーニャ市バルセロナ市を訪問し、カタルーニャ自治州移民局長、バルセロナ国際研究センター、労働者委員会（CCOO）移民部部長、ラテンアメリカ出身移民ネットワーク、ルーマニア出身移民団体、女性移民保護団体を訪問し、地方分権による自治州の権限拡大や移民政策におけるカタルーニャ地方主義の浸透の実態を見ることができた。

今回の海外研修に際しては、「卓越した大学院拠点形成支援補助金」による多大なご支援を受け、大変有意義な研究調査を行うことができたことに感謝申し上げます。



スペイン科学研究高等研究院
人文科学・社会科学研究所
（マドリード）